

高取町の教育

令和5年度全国学力・学習状況調査結果から見える高取町の子ども

1 調査の概要について

○ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○ 実施日：令和5年4月18日（火）

○ 調査対象とする児童生徒：小学校第6学年（40名<内2名未実施>）、中学校第3学年（50名<内4名未実施>）

○ 調査事項及び手法

- ・ 質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- ・ 教科に対する調査 [小学校：国語、算数] [中学校：国語、数学、英語]

○ グラフの見方

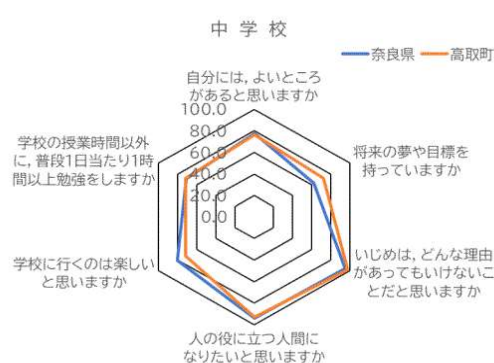
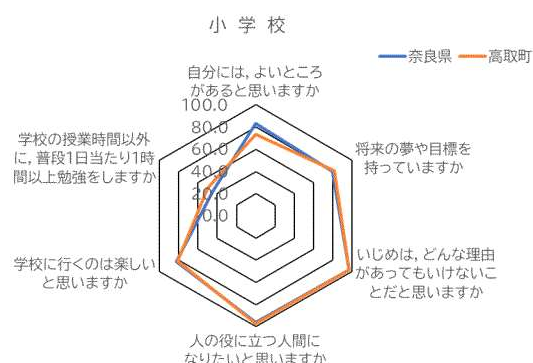
- ・ グラフの数値は素点（テストの点数）ではなく、正答率（最高100%）です。

オレンジ色のグラフが青色のグラフより大きい ⇒ 高取町の成績が県平均を上回っている。

オレンジ色のグラフが青色のグラフより小さい ⇒ 高取町の成績が県平均を下回っている。

2 調査結果について

○ 生活習慣や学習環境等に関する調査（抜粋）



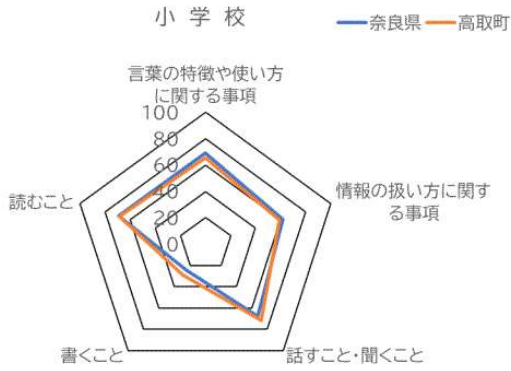
本町の児童・生徒のすがた

◇小学校は、「学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上勉強をしますか」の項目については県平均を上回っています。一方で、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目については県平均を下回っています。自ら考えて行動したり、自分自身に対してじっくり向き合ったりすることが十分ではなかったり、自分に自信が持てない様子が窺えます。しかし、素直で真面目に学習し、指示されたことや与えられた課題を最後まで丁寧に取り組んでいます。

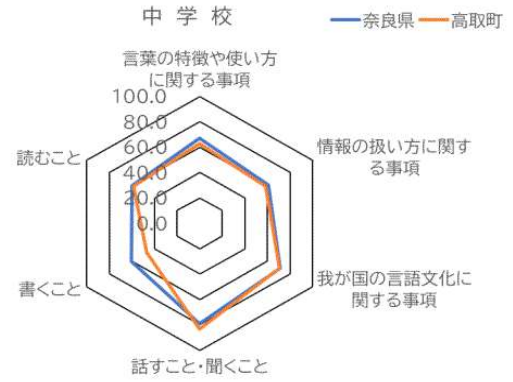
◇中学校は、「将来の夢や目標を持っていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか」という項目では県平均を上回っています。このことから、将来への確かな目標を持って生活を送り、正しいことをきちんと判断できる生徒像が窺えます。

○ 学力に関する調査（抜粋）

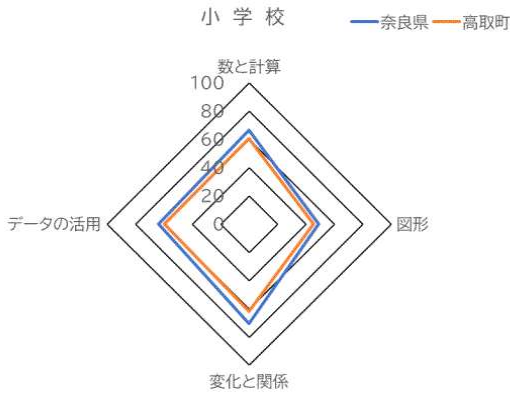
国語



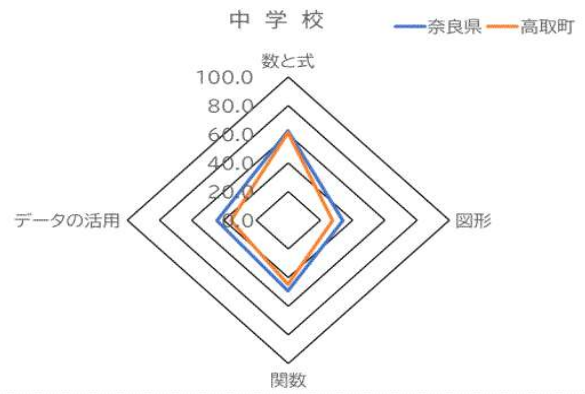
国語



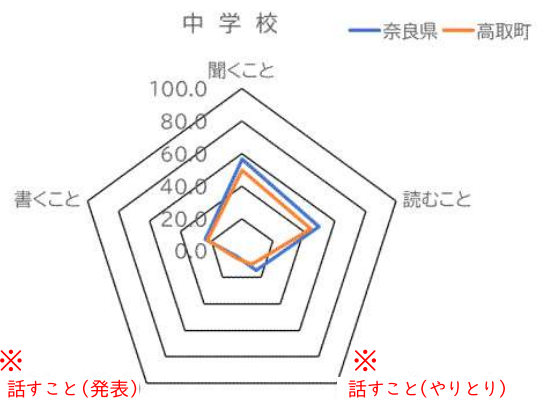
算数



数学



英語



※今回の調査では、**話すこと（発表）**
話すこと（やりとり）については、奈良県の平均集計がなされていないために全国平均との比較になっています。

本町の児童・生徒のすがた(学力)

- ◇小学校の国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」においては県平均を上回っていますが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」においては県平均を下回っています。
- ◇小学校の算数は、全ての項目において県平均を下回っています。
- ◇中学校の国語は、全般的に県平均を下回っています。特に「書くこと」に課題が見られます。
- ◇中学校の数学は、全般的に県平均を下回っています。特に「データの活用」に課題が見られます。
- ◇中学校の英語は、全般的に県平均を下回っています。特に「聞くこと」に課題が見られます。「話すこと」も全国平均をわずかに下回っています。

3 課題に対する改善方法

◇小学校は、「自らの考えをもち、共に学び合う児童の育成」を目指しています。そのために、以下の三点を大切にしたい学びを進めて参ります。

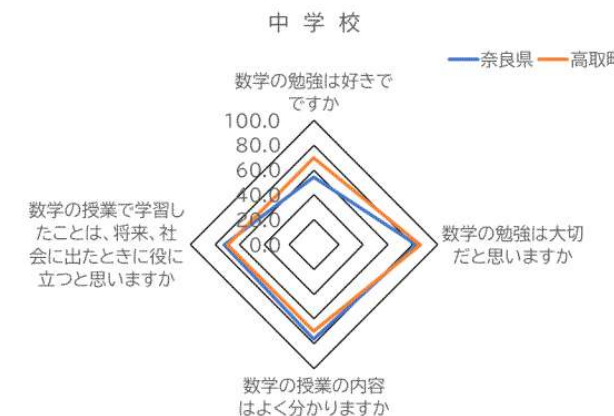
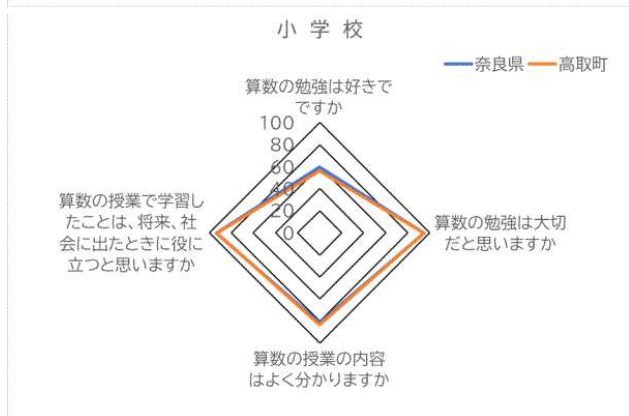
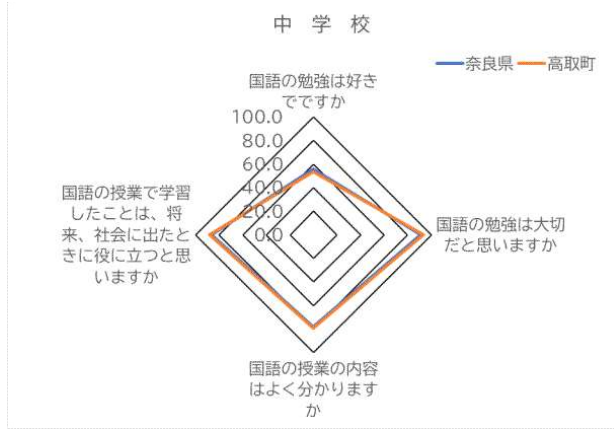
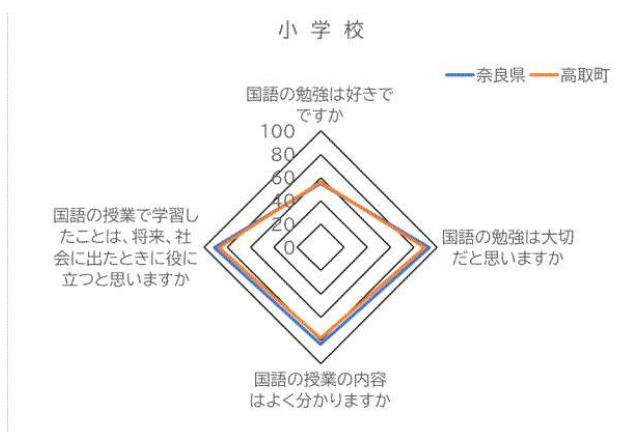
1. めあてとふりかえりを大切にします。
子どもたちの主体性を育むめあてを設定し、学びの確認となる視点を明確にしたふりかえりをを行います。
2. 思考が深まる発問を大切にします。
何を学ばせ、何を思考させ、何を活用させるかを熟考した授業づくりを行います。
3. 効果的な言語活動を大切にします。
言葉遣いは日常生活におけるトレーニングが必須だということを念頭に、日々子どもたちと接します。

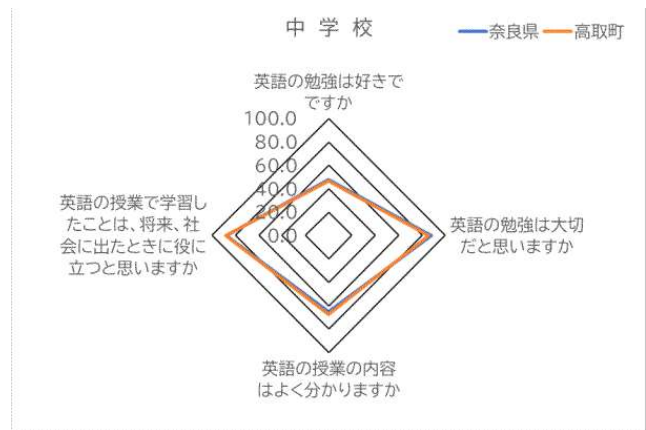
今年度の目標として「みんなで挑戦 笑顔いっぱいいたかむちっ子」というスローガンを代表委員会が掲げており、学校内の色々な行事の実施について、これからはより子どもたちがアイデアを積極的に出し合えるような環境づくりに努めます。

◇中学校は、各教科について以下の点を大切に取り組みを進めて参ります。

1. 国語の結果から読み手の立場に立って文章を整える力や自分の考えが相手に明確に伝わる文章を書く力に課題が見られます。このことから今後国語の授業はもとより、他の教育活動においても作文やワークシートを中心により一層、文章を書く力を高める工夫を行っていきます。
2. 数学の結果から累積度数、四分位範囲、はこひげ図など資料を読み取る問題に課題がありました。数学の授業の中で当該範囲の復習に、より力を入れていきます。
3. 英語は聞くこと、読むこと、話すことに課題があります。授業の中で ALT をより一層活用し、音読の力を高めていきます。

●学習状況に関する調査（抜粋）





◇小学校は、学習状況に関する調査においては、国語と算数ともに全ての項目で県平均とあまり差はありません。しかし、「勉強は好きですか」の項目は国語、算数ともに他の項目より低い結果となっていることから課題の一つであると捉えることができます。学びの楽しさや面白さをより存分に感じられるような授業を日々展開する必要があると考えます。

◇中学校は、国語、数学、英語のすべての教科において県平均と同じ傾向を示しています。特徴的な点は「数学の勉強が好きですか」について肯定的に答える生徒が多く、その生徒の授業に対する満足感が高くなっているところです。一方、国語、英語については「勉強が好きですか」という項目が県平均を若干下回っています。子どもたちは勉強の大切さや社会に出た時に勉強が役に立つという思いをもっていますが、一方で教科に対する興味を十分に抱けていない現状が見られます。主体的な学びになるように授業の改善を図り、学びの楽しさと達成感を感じられるように取り組んでいきます。

○ 高取町の児童生徒の学習と生活の充実のために

今回の学力学習状況調査の結果を踏まえ、これからの時代に求められる資質能力を身につけ能動的に学び続ける高取町の子どもたちの育成のため、学習と生活の充実を図り、以下の点に重点を置きこれまで以上に取組を進めます。

- ◇ 基礎的・基本的な学習内容を確実なものとし、思考力・判断力・表現力を高める指導の推進
 - (1) 小中の連携をより推進し、子どもたちの課題を共有した一貫した取組
 - (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
 - (3) ICTをより効果的に活用した個別学習と協働学習の実践
 - (4) 読書の楽しみを知らせ、読書の質を高めていくための読書活動の充実
- ◇ 子どもの自尊感情（自己肯定感、自己有用感）を育てる取組の推進
 - (1) 個に応じた学びの展開と「わかる授業」づくり
 - (2) 自信や成就感、自尊感情を持たせるために、道徳教育や特別活動などの取組の充実
 - (3) 将来展望をもち自立に向けたキャリア教育の推進
- ◇ 子どもの生活習慣を見直し、家庭学習や読書週間の定着を図るために家庭との連携を推進
 - (1) 基本的な生活習慣や生活リズムの確立の大切さの啓発
 - (2) 「家庭学習の手引」等を活用した家庭学習や自主的・計画的な学習の意識付け
 - (3) テレビ、ゲーム、スマートフォンなどの使い方などの家庭のルールづくりの啓発